

子どもを虐待から  
守るために



子どもは掌中の珠

どこの家庭でも子どもが生まれたときは、「幸せになって欲しい」とその子の幸せを願うのは誰しも同じで、毎日の生活の中で幸せを感じ取れる子に育って欲しいと願うのだと思います。

「銀も金も玉もなにせむに  
まさされる宝 子に如かめやも」

(銀も金も玉も、どうして優れた宝であろうか。子に優る宝があるろうか、いやありはしない)

と「万葉歌人の山上憶良」は、

子は何よりも優る宝と親の気持ちを素直に詠いあげています。

時代を超えて、子を思う親の願いは、何にもかえがたい尊いものです。

しかし、昨今、幼児や児童を親などが虐待する事件が多発しており、児童相談所への児童虐待に関する相談・通告件数も著しく増加しています。

子育ての背景から浮かぶもの

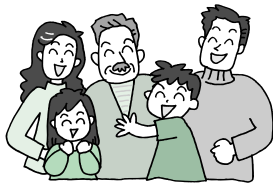
その背景として、地域とのつながりや家族との関係が希薄となり、子育て中の親の孤立による育児不安があります。

確かに、今日、家庭を取り巻く環境は大きく変化し、家庭の養育機能・親の育児不安の増大など複雑な問題が生じています。厚生労働科学研究の調査では、孤立状況は4か月児の親で、23年前の2倍、不安や干渉傾向が約2倍、よその子と比較する傾向が約4倍にもなっています。また、半数の親が『子育てを評価して欲しい』と答えています。これらのことから、自信が持てないまま、子育てすることにプレッシャーがかり、追い込まれている姿がうかがえます。

児童虐待をなくするため

本市は、平成17年に「竹原市次世代育成支援地域行動計画」を策定し、要保護児童への対応などきめ細かな取り組みの推進を掲げております。

また、平成19年度には「竹原市要保護児童対策地域協議会（児童虐待防止ネットワーク）」を立ち上げ、関係機関との連携や情報交換、対応のスピード化を図っています。



深刻化する児童虐待の問題を前に、私たちは何ができるのか、何をしなければならぬかを共に考えてみましょう。

最後に、教育に生涯を捧げたドロシー・ロー・ノルトさんの言葉を紹介します。

- ・ 激励をうけた子どもは忍耐をおぼえる
- ・ 寛容にであった子どもは自信をおぼえる
- ・ 友情を知る子どもは親切をおぼえる
- ・ 安心を経験した子どもは信頼をおぼえる
- ・ 可愛がられ抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じることをおぼえる。



児童虐待の相談窓口  
竹原市社会福祉課  
☎ 22-17742  
広島こども家庭センター  
☎ 082-254-0381